まず泳げることだ
溺れない用心のあれこれ

梅雨があけ、祇園サンが終ればいよいよ子供たちの夏休みです。盛夏の太陽は子供たちはもちろん大人をも海へ誘います。海水浴のシーズンとなります。三池海水浴場は十五日、荒尾海水浴場も十五日からはじまります。ところが例年水の犠牲者は後を絶ちません。今年は絶対私たちの周囲から尊い一命を水の犠牲に終らせないようにしましょう。つぎに水泳についての大切なことがらを記しました。

大切な泳ぎの基本

まずみんなが泳げるようになることが第一番です。

では水泳をすれば、どんなよいことがあるでしょうか。

(1)水を恐れなくなる。(2)心が広くなる。(3)体が丈夫になる。(4)水難をさけることができる。(5)人を救けることができる。

ざっと数えてあげてもこういうことがいえます。

まず泳ぐ前にその日の練習目標をしっかりきめて、水に入りましょう。同じく「ことしは、立泳ぎができるように」というふうに一夏の目標をきめてつぎつぎと泳げるようになることが大切です。

それには基本の練習が必要です。いきあたりばったりに泳いでみても水遊びで終ってしまうことがあります。そこでたとえば、二時間泳ぐとしたら、はじめの一時間をいわゆるおもしろくない基本の練習にあてることです。

ケイレンに会ったら

つぎに溺死の原因になるケイレンやパニック（恐れ）について記してみましょう。

泳いでいるとき、腕や足にケイレンがおこることがあります。よくおこるのは、ふくらはぎと足のゆびで、手のゆびやふとももなどにもおこります。ケイレンがおこれば、その場所がひどく痛んで、泳ぐことはできず、ついには溺れてしまいます。ことに恐しいのは胃ケイレンです。ひとりで、深みで泳いでいるとき胃ケイレンが起ったら、どんな泳ぎの名人でも助かれないといわれています。

それゆえ、まず、ケイレンを起さない用心が第一です。そのためには、準備運動をおこたらないことはげしい運動のすぐ後に水へ入らないことなどの心得を守ることがたいせつです。

ところが、どんなに心得を守っていても、ケイレンのおこることがあります。

もし、深みでケイレンがおこったら（いや、できたら、おこりそうに感じたとき）あわてずに、つぎのようにやりましょう。

泳いでいる場所が、岸に近かったらケイレンのおきた部分を使わずに岸へ向って泳ぎます。

その他の場合には、泳ぎをやめてあたりの人へたすけを求めます。

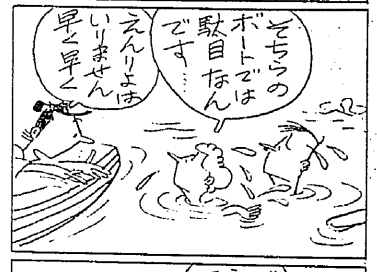
たすけてもらえそうもない場合には、まず、大きく息を吸いこんで顔を水につけ、ケイレンしている筋肉を、両手でギュッと強くつかみ、もみほぐすようにすればなおります。

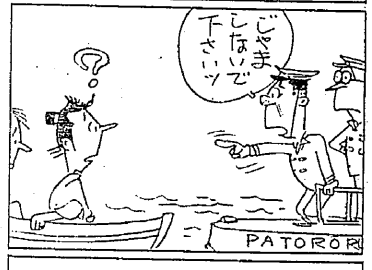
胃ケイレンにたいしては、方法がありません。だから、一度でも胃ケイレンのおこったことのある人は、げっして背の立たない深さで泳がないことです。

パニックの注意

泳いでいる時、わけもなく、ふと恐ろしくなることがあります。たとえば、ばけものの足をひっぱられないかとか、フカがこないかとか、ケイレンをおこさないかとかばかばかしいことを思いがちなものです。このような「わけのわからない恐れ」をパニックといいます。そして、パニックにおそわれると、あわてて陸へ帰ろうとして無理な泳ぎ方をし、溺れるようなことになるのです。これは相当泳ぎのじょうずな人も時時あることです。

もし、パニックにおそわれたら、心を落つけて「こんな馬鹿ばかしいことは、よくおこるもんだ。こんなことでも溺れることがある」ということを思い出して、あわてずに泳ぐことがたいせつです。





仇討　崇禅寺馬場
哀しい武士の意地を描く

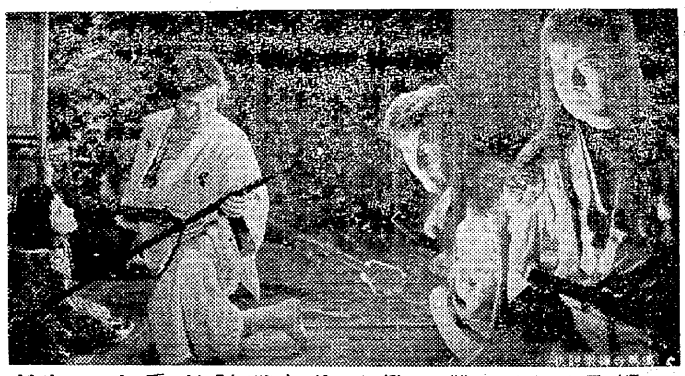
「崇禅寺馬場」の物語は、慶長十年から元和元年にいたる二百六十五年間、〝仇討〟と称される果し合いの記録百十件のうち〝返り討〟となったわずか三件の中でも大阪を舞台としてとくに有名な遺縁仇討の物語である。

武士という人間の意地と、ひとすじの恋に生きようと願う女の心、そして、それにまとわる人々の哀れにも悲しい心情を描いたものである。

× × ×

正徳五年晩春、大和郡山城では名門柳生藩主を客人に迎え、藩内の武芸大会を行った。年少優勝者選城宗左衛門が本田家武術師範生田伝八郎（大友柳太郎）に挑戦する最後の試合がきた。自家の派閥をつかう宗左衛門にむける柳生藩主の目は自然好意的だった。勝負はまだ結果にいたらぬ矢先、柳生藩主の声がかりで伝八郎の敗けときまった。この結果、伝八郎は役目を取上げられる破目になった。憂うつな心にも妻浪江（風見章子）の暖いいたわりを期待して帰ったが、妻の非情な言葉に憤然とした伝八郎は家を出た。

城下で行きあった友人連で意気挙る宗左衛門に「今日の勝は不純なもの、真実勝ったと思うな」と忠告した親切は仇となり、争いの末宗左衛門を斬り捨てて難波へ去った。



これを知って逆上した藩主忠直は（徳大寺伸）逆縁を承知で宗左衛門の二人の兄、治左衛門（堀雄二）と喜八郎（三条雅也）に脱藩までさせて伝八郎を討つよう命じる難波、沖仲仕の頭万造（遠藤英太郎）の家で働く伝八郎はこれをしった。藩主の虚栄のため脱藩してまで仇を討たねばならぬ兄弟を不びんに思った伝八郎は討たれる決意をしたのだが、万造の娘お勝（千原しのぶ）は伝八郎をひそかに愛していた。

お勝の真実にともすればひかれがちだったが意を決して果し合いの場所を崇禅寺ときめた。その夜帰らぬ伝八郎の身を案じたお勝は人足たちを起した。

「やめてくれ、助太刀はならぬ伝八郎の武士がすたる」伝八郎の絶叫にもかかわらず人足たちのためあわれ兄弟は返り討ちとなる。

実情を知らぬ世論はこの卑怯な返り討ちに激怒した。万造はひそかに伝八郎を役人の手に渡そうとするがお勝はこれを守った。

自責の念に狂った伝八郎は兄弟の霊におびき寄せられるが如く、馬場へ来た。これをみた町の者も一人増え二人増え、この哀れな物語の敵役をとりまく。「父が成敗する直れ」と怒る江平に短筒をむけるお勝も逆上した「この人はわての人や」と叫び伝八郎を射ち自分の胸にも弾を射ぬいた。

（十六日より東映で上映）

生活つづり方　〝雨の日に〟

銀水社宅　ゆり

雨、雨、雨、梅雨明けの雨が、三、四日降りつづく。

もう近郷の田植えもすんだろうにいつまで降るのか知ら？

日ごろ「勤め」で家にいない私も、あまりの激しい降りなので仕事を休み、終日子供達とともに過す。

長女は昨日より「流感」で休んでいるが、中の二人の男の子はいたって元気。始終体を動かしていないと気がすまぬらしい。

「相撲」をとったり、「パチ」をしたり、椅子の上や押入れの上から飛んだり、ボールを投げ合ったり、天気のよい日は保育園ではね廻っているので雨の日は大変。もう今朝から五度目の「げんか」、仲裁もなかなかむづかしい。始めはお互いにふざけてやり合っているが、次第に白熱！あまり度々の事なので、放っておくと、終いには収拾がつかなくなりウアウア二人共泣き出す始末…。でも、いま泣いていたかと思うと、赤銅鈴之助がどうしたの、伏見扇太郎が、中村錦之助、いや、扇雀がああしたとか、ラヂオや映画、紙芝居等に夢中になって話しこんでいる。

来年から小学校に入学する二人勉強もああ良くやってくれれば助かるけれど…なんて考えると来年が楽しみ…。

今年、三才八カ月になる末っ子は、大変な「お茶目さん」三年生の長女より洗濯の手つきも、ふき掃除もうまい。兄ちゃんたちのそばで、大人しく遊んでいるので、一寸油断していたら、鏡台の前で盛んに「おめかし」。

「何しているのツー」と大きな声を出したら、しかられると思ったらしく、ベソかいたその顔ー。

思わず吹き出してしまった。

右のホッペタや鼻のあたま、口許が真赤。

まるでオテモヤン。

しかられると思ったご当人。私が笑い出したので、至極ご機嫌、片手に持った手鏡で時々自分の顔をながめてはにやにや鼻唄まじりー。

あれで「おしゃれ」したつもりらしい？。

やはり女の子は女の子、先が思いやられる。

雨は一向に止まず、ジャアジャアふりつづいている。

ラジオのニュースは刻々と水害の被害状況を報せている。大牟田地方は大したことはないらしい。でも、ふと、何時も通っている白川橋の下のことを考える。だんだん「水かさ」が増して来るだろうに、どうされるだろうあの人たちは？。

自労の人たちも、こう雨が幾日も降っては、仕事が出来なくて困られるだろう。来月は「おぼん」が来る！、子供にワンピースの一枚も買ってやりたいだろうに、明日いや、今晩の米代にも困って？…ああ私は幸福だ。雨が降っても勤めに出て行く夫がある。月末には少々赤字を出しても、幼児たちは元気ですくすく育っている、わずかな収入ながら私も仕事をもつている。

「ぐち」は云うまい。ぜいたくすまい。

梅雨が明けたら、真夏の太陽がさんさんと照るであろう。

海が待っている。この二、三年行けなかった海水浴。「今年こそはみんなの健康のため連れて行くぞ」と張り切っている主人。

ああ、太陽の光が恋しい。いつまで降るこの雨…水害の被害者は本当にお気の毒だ。

毎年々々、台風の被害、水害、復旧工事も終らぬ前に被害がやって来る。

尽しい工事費では、河川の復旧も、道路、地滑りの修理も思うようにはかどるまい。

大きなのは全購連の汚職。身近なところでは福岡県の「一億円」公金流用事件。全国的に見れば、こんな事件は「氷山の一角」に過ぎないであろう？。

私たちの血税はもっと有効に使ってもらいたいものです。昨日の夕刊にソ連の四首脳者たちが「反党グループの反逆者」として「党中央委員会幹部会」から解任された。クレムリンの静かなる暴風〟を伝えていた。やはり「鉄のカーテン」内は〝きのうの友はきょうの敵〟お互いに油断もスキもあったものではないらしい。

それに較べると日本の政治家は楽だ。生命の危険はなし、党のため、自分たちのためになることなら、国民の与論も、何のその、内閣改造も派閥争い、見憎い泥試合選挙の人気とりはやめてほしい。

真に国民のための政治をしてくれる政治家が出てくれないものか…。今日の朝刊には「十月一日までに、十キロ八百五十円の米価を実施、閣議で本決り」と掲載。それでも食管は「百億の赤字」とか？そんなもの国民が知るものか！私たちからはとれるだけの税金をとっているではないか。

一時間の残業にも、年に二度もらう、ささやかなボーナス袋からも一円のゴマカシも出来ないサラリーマンの税金を…。

一箇減税の恩恵を受けるのは誰年収五十万、百万の高額所得者のみ。

少々の値上げしても追っかけ家計。

来年からは給食費も三人分、大変大変。

十二年後にこの二人の男の子に角帽かぶせることが出来るサラリーがほしい。

協力しよう主人に、そして私も働こう子供たちのために。

夢中になって遊んでいる子供たちも、珍しく家にいる。私のそばへ来ては、「お母さん今日は行かんとね、仕事には？」「ずーっといるとね？」と聞きに来る。「今日は本当にどこへも行かないのよお休みだからね」といえば「由利子、今日はお母さんを行きをはらんげなよ、よかねえー」と末っ子に話している言葉を耳にした私はあと済まなかった、やはり母親がいないのは淋しいのに、何時も元気に「行ってらっしゃい」と別れる朝の挨拶も子供達にはつらかったのだ。「ご免なさいね」こんどは日曜々々は休んで子供達と行動をともにしようと心の中でわびた。

無心に遊ぶこの幼児達の十年後二十年後に母の「願い」をかけ、夢と希望を託して明日からの生活を子等とともに進もう……。

等々とあれこれ考えて鉛筆を走らせていると、「お母さん、お母さんひもしかよ、何か頂戴」とオヤツの催促、「さっきご飯食べたばかりじゃないの」と時計を見れば、もう三時半、この辺で夕飯の支度にかかりましょう。　七月三日

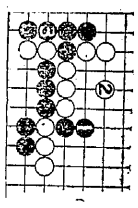
基山雷管工場見学

田中津根を

梅雨の晴空高ぬれてきく歓迎辞
乙女の青春かたく閉して梅雨めく森
梅雨めく暗さ見学団へぬすみ眼して
かこつ青春雑麦の雨に霧山消え
吹き降りの梅雨や乙女に椅子画き
電流音にしびれつ傘ぐ梅雨の底
工業の乙女胸の中にて梅雨に溺む
雨のつゞじへ女工等の青春炎ゆるなし
梅雨寒き津の炎え切らず男等見る
梅雨寒し寡婦めくらなじおとがいも

囲碁教室　(17)
隅の重要性

碁は地の囲い合いですが、常に生死の問題が絡んで複雑な様相を呈します。地を囲う石が取られては元も子もなくなるからです。そして活きるということは、それが二眼の活きであろうと曲り四目あるいは棚型の活きであろうと、要するに地を囲うことです。そこで隅の二方の盤端を利用するのが一番早い活き方ということになります。石が活き易い、つまり根拠を持ち易いということが、隅から打ち始める理由の一つでもあります

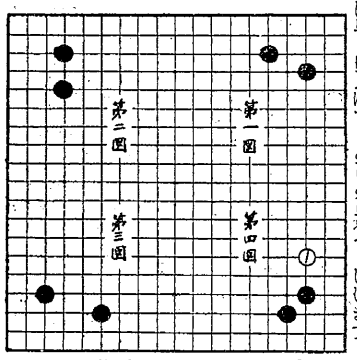


「四隅取られて碁を打つな」という格言がありますが、一番囲い易いしかも四カ所ある隅を交互に打って全部取られるということはおかしな話で、確かに四隅取られることはよくないことでしょう。だが地を囲うには盤端の利用も大切ですが、地を正方形に囲うこと、大きく囲うことも必要で、そのためには隅は早く切上げて、どしどし辺や中央へ発展しなければならないのです。

要するに隅は最少の手数で根拠をもちうるところに意義があるのです。

隅の着手

それでは実際に隅を打つにはどう打てばよいでしょうか。普通隅は二手かけてこれを確保しますが、このことを隅を締るといいます。



シマリには次の型があります

第一図小桂馬締り
第二図一間締り
第四図大桂馬締り
第四図、名称はありません。特殊の場合、即ち白が1と掛つてきた場合に打たれます。